

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第1回河内長野市廃棄物減量等推進審議会
2 開催日時	令和4年 8月29日(月) 午前9時30分～11時30分
3 開催場所	市役所8階 802大会議室
4 会議の概要	第1部 1. 委嘱状の交付 2. 開催挨拶 3. 委員紹介、事務局紹介 4. 会長・副会長の選出 5. 会長挨拶 6. 諮問 第2部 1. 本市のごみ処理の状況及び家庭ごみ収集方式の検討経緯等について 2. 今後の審議の進め方 3. 次回の予定等について 4. その他
5 公開・非公開の別(理由)	公開
6 傍聴人数	なし
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部環境衛生課資源循環係 (内線407)
8 その他	

第1回河内長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録

1. 開催日時等

- ・日時：令和4年8月29日（月）午前9時30分～午前11時30分
- ・場所：市役所8階 802大会議室

2. 委員等出席者（敬称略）

- ・委員：久 隆浩(会長)、金子泰純(副会長)、山元真里、玉崎和実、岸 久子、
天川麻子、峯山建道、平 美輝、樋井悠好、浅川 浩
(欠席委員：鈴木幸子、田嶋聖子)
- ・事務局：環境経済部長 島田、環境経済部理事 早川、環境衛生課長 吉川、
環境衛生課課長補佐 竹内、環境衛生課主幹 岩井
(株)地域計画建築研究所 長澤チーム長、齋藤主査

3. 審議会要旨

第1部

1. 委嘱状の交付（榊井副市長）
2. 開催挨拶（榊井副市長） 市長のメッセージを代読。
3. 委員紹介、事務局紹介
4. 会長・副会長の選任
 - ・金子委員が久委員を会長に推薦し、満場一致で選任された。
 - ・久会長が金子委員を副会長に推薦し、満場一致で選任された。
5. 会長挨拶（久会長）
6. 諮問（榊井副市長）
 - ・副市長から久会長に諮問書が渡された。

（公務により、榊井副市長、島田環境経済部長が退席。）

第2部

1. 本市のごみ処理の状況及び家庭ごみ収集方式の検討経緯等について

- 《資料》
- ・本市が目指す将来象にふさわしい家庭ごみ収集方式の検討に向けたロードマップ
 - ・河内長野市のごみ処理について
 - ・家庭ごみ収集方式の検討経緯等について
 - ・【令和3年度】家庭ごみ戸別収集方式検討調査業務報告書（概要）
 - ・審議会スケジュール（案）

・基礎調査について（案）

事務局より上記資料について説明を行う。

＜質疑等＞

久会長：高齢化の進展により、ごみ出しが困難な方が増加している。収集の費用を全て税金で賄うという事も財政的に難しいであろう。福祉事業についても、全てを行政が提供できないため、地域の力を借りながら対応する状況になってきている。ごみの収集も地域の力をうまく使う、また、ごみを出さない工夫も必要だと考える。このように様々な観点から、審議会で議論をさせていただきたい。本日は第1回なので、事務局の説明を受けて、質問でも意見でも、活発に発言をいただきたい。

山元委員：自治会アンケートは自治会を通じて市民の意見を聞くためかと思うが、現在の自治会加入率はどの程度で、自治会に入っていない方への対応をどうしていくのか、受益者負担と言う観点からも不公平感がないようにと思うが、どうか。

事務局：自治会の加入率は令和4年4月末で65%と聞いている。また自治会に加入していない方については、令和2年度に市民2,000人にアンケートを実施したことにより現在のステーション方式の課題はおおよそ把握できていると思う。

戸別収集を実施する場合、個々の希望に対応するのは難しく、地域エリアごとに収集方式を決めていく必要があるため、地域のまとまった声として自治会長に声を聞こうということで、自治会にアンケートをとることとした。

久会長：地域の意見を自治会長が取りまとめをするのは厳しいだろうということで、今回の自治会長へのアンケートは、地域の状況を聞くものとして実施するものである。

平委員：去年まで他市に住んでいた。そこでは戸別収集の地域と集団収集の地域が分かれていた。事例調査されるのであれば、収集方式が混在している市町村の事例も確認していただきたい。

久会長：両方の方式が含まれている市町村に、導入経緯や状況等を確認してほしい。

浅川委員：今回、収集方式の議論を行うということだが、併せてごみ減量対策なども具体的に検討して欲しい。

久会長：そもそも、審議会の名称が、廃棄物減量等推進審議会となっているので、ごみの減量についても目配せをしながら考えていければと思う。

樋井委員：私の住んでいる地域は、自治会に加入しなくても良いような地域だが、市全体の自治会加入率が予想以上に高いと思った。実際、自治会に加入しなくてもごみステーションを利用できるが、ステーションがカラスに荒らされているのに気付いても、仕事にもいかないといけないため、気になりながらも片づけができない

という葛藤がある。ステーションの管理については個々の感じ方にもよると思うが、責任感の問題。責任感があればリサイクル率も高くなると思う。

久会長：地域でやっている事を自治会の役員のみが回してしまっている所もあり、それがごみステーションの話とも絡んでくると思う。個人と地域のコミュニティそれぞれの行動をどの様に上手く連携させて行くのかについて、今後も引き続き検討課題としていきたい。

天川委員：私が住んでいる地域では、ごみ置き場の管理は当番制となっており、ごみのごみ置き場に残っていると、当番の人の責任になる。結果、分別やごみ出しマナーが非常に良い。仕事をしている人は当番が回ってくると大変であるが、たまに忘れてしまっても、気づいたら誰かが掃除してくれている。「お互いさま」の精神で、何か助けあいの形が模索できないか。

玉崎委員：私が自治会長の頃に地域の方々にふれあい収集を紹介してきたが、利用世帯が少ないと思う。どのようなアピールをしているのか。

事務局：ふれあい収集については、アンケート結果でも認知度が低い状況である。そこで、ケアマネージャーに制度の説明を行い、そこから広がるようにと取り組んでいる。また高齢者福祉ガイドブックに掲載し、制度の周知を図っている。

久会長：必要な方にお届けできているのではないか。地域の状況は、峯山委員いかがか。

峯山委員：ふれあい収集については、ケアマネージャーに十分周知されていると思う。自治会アンケートで、地域の協力や見守りがどの程度行われているのか、ふれあい収集を使わなくても助け合いができている地域があるか、などがわかればと思う。ふれあい収集の要件に該当しなくても困っている方も多くおられるので、基準緩和の検討をして欲しい。

久会長：地域の力が非常に強い所は、色々な事を自分たちで解決している。ごみ出しだけでなく、地域でどの様な助け合いの取り組みがされているのか、アンケートの調査項目に入れていただきたい。これにより地域の姿が見えて来るのではないか。上手く地域が回ると、地域の色々な問題が解決できる。根本的には若い世帯を増やして行く必要があるが、難しい。地域コミュニティの問題の延長上に今回のごみ収集の話があると思う。根本にある話も含めながら、深く広く議論ができれば、答申も多様な視点から出せると思うので、色々な意見を出していただきたい。

金子副会長：事務局の説明で戸別収集を実施した場合、約3億円という試算であった。戸別収集にこの金額を使うのが政策としてバランスが取れているのか。市の財政に余裕があれば良いがそうではない。また、多くの市民が戸別収集を希望しているのか疑問である。市民アンケートでは、ふれあい収集など高齢者へのサービスの

拡充、ステーション方式のままが良い、を足すと50%を超えている。戸別収集を望んでいる、は21%である。結果を冷静に見ると、市民の意見としては、ステーション収集のまま、その代わり、高齢者に対するサービスは何らかの方法で拡充するのが良い、ということではないか。自由記入では、ごみ散乱やシール制に対する意見が多いと感じる。戸別収集に絞って議論ということよりも、市の財政をどう使うのが最も河内長野市民にとって良いのかという議論も必要ではないか。

久会長：河内長野市で、地域福祉の検討も行っているが、コミュニティが上手く回れば色々な問題をコミュニティで解決できる。地域で状況を話し合っ、誰もが無理なく参加できるコミュニティの仕組みに変えて行く必要があると思う。ごみステーションの管理問題も、地域できちんと話し合えば、色々な事が違う方向に回って行くはずである。現在、地域でどうなっているのか、自治会長アンケートで確認できればと思う。また、地域の中に一定数おられる環境意識の高い方々が、ステーションの管理を集中的にやっていただけるような地域コミュニティが出来ると、今までとは違う地域の回し方が出来ると期待している。地域の力を高めることで、ごみ収集だけでなく地域福祉の問題も良い方向に行くのではないかと思うので、併せて検討することが重要ではないか。

金子副会長：戸別収集の話が出てきた経緯を教えてください。

事務局：戸別収集については、市民や議会から実施を求める意見が積み重なってきたため、令和3年度より調査検討を行うことになった。

金子副会長：戸別収集を求める声が大きくなってきたと言う感覚があるということか。

事務局：以前から市民から意見をいただく場面というのはこれまでも時折あった。議会でも戸別収集について意見が寄せられることがあり、意見を整理し、検討することになった。

山元委員：ごみ出しが困難な方からの意見であれば、現在のふれあい収集の拡充を図る事で解決できると思われる。ステーションの管理が煩わしいから戸別収集が良いという方がどれぐらいいるのかによって答申の方向性が変わってくると思う。自治会未加入者と加入者の間で不公平感が無く、公平な答申が出せると良い。現役世代の声も上手く聞ける様な仕組みと項目で自治会アンケートを実施して欲しい。

久会長：現在ごみ収集が直面する課題として、高齢化によるごみ出し困難者の増加と、ステーション方式の排出ルール遵守が難しい世帯の出現、のふたつがある。両方について議論して欲しいと言うのが事務局の説明であったと思う。全体構造をきちんと整理をして行きながら議論し答申を作成する必要がある。議論の中で整理しながら進めて行きたい。

岸委員：ふれあい収集はどなたが集めているのか。費用の問題と、今後、対象世帯が増えた時に対応できるか、などもあると思うので知りたい。

事務局：現在、シルバー人材センターに委託して収集を行っている。もえるごみは水木金のいずれか週1回収している。

久会長：ふれあい収集のやり方も市によって違っているようで、他市の事例をまとめてほしい。他にあれば、事務局に意見等いただければと思う。

2. 今後の審議の進め方

<質疑等>

事務局：アンケート案については、メール等でお示しさせていただくので、確認いただき、意見等を頂戴したい。

久会長：次回の審議会の開催については、アンケートや他市の事例収集等もある為、少しお時間をいただきたい。進め方について何かご意見等あるか。

久会長：現在、ごみ出し等に困っている方の声を確認したいので、ケアマネージャーの方へのヒアリングなども行ってもらえれば当事者の生の声に近い形で集まると思うので、調査の中に入れていただきたい。峯山委員などの協力を得て、調査いただき効果的・効率的に出来ればと思う。

3. 次回の予定等について

<質疑応答>

事務局：アンケートの結果も踏まえて、次回に開催を考えたい。余裕をもって次回の案内をお送りしたい。

久会長：改めて日程調整をさせていただく。本日のみなさんの意見をお聞きしていると、拙速に結論をださない方が良いのではないかと思う。きちんと議論が出来るように時間を取っていただけるようお願いしたい。

4. その他

事務局：アンケート案がまとまりましたら、みなさま方にお示しさせていただくので、ご意見を頂戴したい。

久会長：それでは、時間になりましたのでこれで、第1回目の審議会を終了させていただきます。本日は、長時間ありがとうございました。

(以上)